土木學會選奨土木遺産

わたらせゆうすいち

渡良瀬遊水地

令和４年度認定

○ 認定理由：相反する“建設と環境の両立”を具現化した本邦最大級の遊水地で、現在も機能整備が進められる living heritage として、果たしてきた役割・意義を後世に伝えていくべき重要な歴史的土木施設・文化遺産

○ 所在地：栃木県栃木市・小山市・野木町、群馬県板倉町、茨城県古河市、埼玉県加須市

○ 完成年：1910(明治 43)年～1972(昭和 47)年　≪第 2 調節池概成まで≫

○ 形式等：遊水地　南北約9km、東西約6km、周囲長約30km、面積：約3,300ha

（主な対象施設）

① 周囲堤：約12km、天端幅7.5m
② 囲繞堤：第1調節池6.1km、第2調節池7.0km　天端幅7.0m
③ 越流堤：第1調節池2.5km、第2調節池0.79km　天端幅5.0m
④ 排水門：第1調節池：ローラーゲート、総幅員30m（＝10m×3連）
　　第2調節池：ローラーゲート、総幅員10m（1門）

○ 管理者：国土交通省関東地方整備局 利根川上流河川事務所

○位置図

渡良瀬遊水地は、東京から約60km圏に位置し、栃木・群馬・茨城・埼玉の4県に跨るわが国最大級の遊水地であり、外周約30km、面積約3,300ha、洪水調節容量約17,680万㎥である。

日光連山を形成する皇海山および庚申山を源流とする渡良瀬川は、群馬県みどり市・桐生市から栃木県足利市内を流下し利根川に合流する。明治期までの渡良瀬川下流域は、狭く蛇行した河道で流水の疎通が著しく妨げられ、加えて、赤麻沼・石川沼・板倉沼等が散在する低湿地帯であり、破堤による洪水の常襲地帯であった。そのため周辺地域の住居は自然堤防上や微高地に建てられ、谷中村も集落を堤防で囲う囲堤（かこいづつみ）集落であった。一方、渡良瀬川上流域の足尾では、明治10年代以降、銅精錬の近代化により産銅生産が飛躍的に進展し、精錬のための山林伐採による山地荒廃と精錬過程における鉱滓等を含んだ土砂流出が常習化し、洪水時には渡良瀬川中下流域で鉱毒被害が蔓延した。

そのような状況を踏まえ、1902（明治35）年『第2次鉱毒調査委員会』の報告を受け、渡良瀬川の改修が計画された。しかし、当時、利根川の改修工事中であり、計画高水流量に影響を与えないことが必須条件であり、渡良瀬川の改修に際し一時的に湛水させるための遊水地が必要となった。加えて、鉱毒の拡散誘因となった洪水被害への対応として、堤防の修復・新設強化策が図られた。遊水地は、渡良瀬川河川改修計画の要の施設として位置付けられ、鉱毒被害が最も深刻だった渡良瀬川下流域の谷中村は、1905（明治38）年、栃木県から“遊水地化”と移住方針が出され、1907（明治40）年に集団移転と最後まで移住反対16戸の強制収容が行われ、1917（大正6）年に移転が完了した。

遊水地化の工事は1919（大正8）年に、周囲延長約27kmのうち、堤防区間は自然の高台約15kmを除く約12kmで開始した。この遊水地周りの堤防（周囲堤）は、天端幅4間（約7.2m）で築造され、1921（大正11）年に概成した。

その後、1947（昭和22）年に発生したカスリーン台風は、渡良瀬川・利根川に止まらず渡良瀬遊水地も十数カ所で決壊する等、周辺地域に大きな被害をもたらした。これを契機として、1949（昭和24）年の『利根川改修改定計画』では、渡良瀬遊水地の周囲堤を嵩上げすることに加え、その内部に“囲繞堤”と“越流堤”の新設による洪水時の貯留機能を高めることを企図し、第1調節池が1970（昭和45）年、第2調節池が1972（昭和47）に概成した。

現在、渡良瀬遊水地では、第3調節池に1997（平成9）年が概成、さらに、首都圏の水需要の高まりへの対応として渡良瀬貯水池（ハート型をした谷中湖）造成、1988（昭和63）年に『アクリメーション構想』策定、2010（平成22）年に『渡良瀬遊水地湿地保全・再生基本計画』、さらに2012（平成24）年に世界ラムサール条約批准等、環境保全に積極的に取り組み、評価されている。渡良瀬遊水地は、これまで相反するものとして位置づけられてきた“建設と環境の両立”を具現化したインフラとして重要かつ貴重な施設である。そのflash pointとなったのが低湿地・鉱毒被害への対応として計画された渡良瀬遊水地造成とその基幹施設としての築堤である。2022年は、治水事業から100年、ラムサール条約批准10周年の節目の年でもある。現在も機能整備が進められるliving heritageとして、あらためてその果たしてきた役割・意義を後世に伝えていくべき重要な歴史的土木施設・文化遺産といえよう。

① 周囲堤築造工事（前原築堤）

出典：「渡良瀬川改修工事記念寫眞帖」（大正 4.3.10 撮影）

②囲繞堤第 30 築堤工事

出典：「渡良瀬遊水地工事史」

③第 2 越流堤ｱｽﾌｧﾙﾄ法覆工事

出典：「渡良瀬遊水地工事史」

晴れ渡る富士の僥倖とコウノトリの営巣。建設と環境の共生をみつめる

出典：特定非営利活動法人『わたらせ未来基金』2022.4.22
撮影：伴瀬恭子氏

① 周囲堤現況

②囲繞堤現況

③越流堤現況

④排水門現況（第 1 調節池）

※①～④現況写真：2022.3.15 撮影
撮影者／折田利弘氏
（あどもい会長，フォトグラファー）